

私たちは努力精進して、**役に立つ人間になれ**ということ、役に立たない人間は駄目だということと言われ続けてきた。努力精進の美德を褒め讃え、反対にバカになるなということである。厄介なことに、他人がバカなことはすぐ分かるが、自分がバカなことはなかなか分からない。しかし、役に立たない駄目人間だということが自分自身に実感されてくると、生きる意欲さえなくなるほどのショックを受ける。自分は居ても居なくても変わらない、居ないほうがいいのだ、ということになり、自分で自分を虐めていく。役に立たないということが自分を否定し、生きることさえ出来なくなるという重大な生存の危機に陥るほどの深刻な問題なのである。

人間は**努力精進**して役に立たなければならないという掟おきてを作って頑張り、息切れすると、この問題に苦しむ。元気なときはオレがオレがという心で、俺ほど役に立っている人間はいないと自負するが、歳をとってくると今まで経験したことのない衰えを実感していかなくてはならない。目が見えにくくなる、耳が聞こえにくくなる、足が痛くて歩けないなどなど、廊下による苦しみをじわじわと味わわなければならない。役に立つなどの今までの自信は崩れ去り、情けない人生になっていく。

生まれてこの方、ずーっとこのように役に立つことが生きていることの証明のようにしてきた私が、そうでないことを容易に認めることはできない。そのことは役に立たないことは駄目だという考えを、**役に立たなくなった今**さえも持ち続けていることになる。これでは生きていくことが出来なくなる。どこかで気晴らしをしていないと、苦しくなり、役に立たない自分を嘆き悲しみ、情けないと自分の命を縮めていく。

「**攝取不捨を阿弥陀と名づける**」というご和讃があります。竹鼻別院の本堂にも竹中智秀先生が「攝取不捨の大悲心はえらばず、きらわず、みすてず」とおっしゃっています。役に立たなくなるとみんな捨てられるのです。ゴミになってしまう。人間もゴミになってしまう。ゴミにならないように必死になって生きるのですが、いつか全く役に立たない存在になります。捨てないというのが仏様の世界であると。どうしてそのようなことが言えるのであろうか。役に立つことだけを善しとしないからです。役にたたなくても善とするのが仏様です。

人間の価値判断を言わない世界が仏様の世界です。役に立つということは、人間を道具扱いしているのではないのでしょうか。道具は役に立つときは大切にされますが、役に立たなくなると捨てられ、ゴミになります。私は道具ではない、人間だということは、仏様に触れないと分からないのですね。ゴミになっていく人生にストップをかけるのが仏様です。仏様にお会いして、初めて生きることの本当の意味が見えてくるのです。